

# 「日本最初のろう校長?!松村清一郎研究」

発表者 橘 勇一氏(富山県ろうあ福祉協会理事)  
(富山手話研究会代表)

## 1: ろう者歴史について

今まで、私たち富山手話研究会は 伝統的手話やろう者歴史などの調査・発掘・研究を進めてきました。その中で、明治以前にもろう者集団があり、手話や社会慣習が しっかり伝わっていたという史実がわかりました。

例えば、明治11年に日本で最初の京都盲啞院を設立した古河四太郎氏、大阪市立ろう学校教員の大曾根源助氏、日本ろうあ連盟初代連盟長の藤本敏夫氏、小黒村長の横尾義智氏などは皆さんご存じでしょう。

それは松村精一郎氏ということをご存じでしょうか？松村氏は、地元の富山県西砺波郡福光町出身の方です。今日は、この松村精一郎氏についてくわしくお話ししたいと思います。

## 2: 松村精一郎氏は子供のころコミュニケーション方法について

口形から言葉を読みとり、指で書く文字を素早く判読して対談するけど手話は？

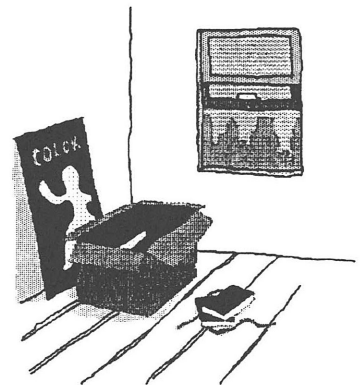
## 3: 東京へ遊学

当時の江戸（現在の東京）へ行ってからは、ショウヘイコウ（学校の名前、当時の江戸幕府が創った学校）へ通っていたそうです。

中村敬字師と出会いのあと、明治12年10月に故郷の富山へ帰る途中で京都盲啞院に派遣された。そのとき、手話（手勢法など）をはじめて見たか？また手話で話したのか調査中です。

## 4: 明治13年3月の私立金沢盲啞院創立について

(地元の富山盲啞院創立しない理由は・・・)



【1】松村精一郎年表概略

明治13年(1880年) 富山県福光町出身の松村精一郎が金沢市長町川岸に金沢盲啞院を開設。松村は院長になる。

嘉永2年(1849年) 四代目与三郎の次男として越中国西砺波郡福光新町村に生まれた。生家は旧家、富豪で、稼業は酒造。幼名は荘作、通称清一郎、西荘と号す。

幼児より読書を好み、宮永菽園先生に学ぶ。

1854年(6歳) 『6歳のとき天然痘を患い、生死の境をさまよう。さらに奇病を併発し7年間、寝たきりになる。そのため、耳は聾し、口は啞し、足まで不自由となった。』3重苦の重複障害者。

1863年(14歳) 菽園の口構、指文字(指で書く文字のことで筆記)で学ぶ、14歳で司馬遷の「史記」に精通。その後、金沢に出て、当時儒学者で有名な永山玄軒、稲坂謙吉の二人の師に学ぶ  
1875年(26歳) 船8年 イギリス人ミッチェルの世界地理書を訳す。

1876年(27歳) 船9年 東京に遊学、中村敬宇(中村正直)の同人社に学ぶ。中村は彼を「聾才子」「鴻儒」(学問の深い人)と呼んだ。中村は、訓盲事業のため宣教師のフォールズらと共に『楽善会』という結社を結成していた。松村は師である中村から楽善会訓盲院設立の事を聞く。

1879年(30歳) 船12年 10月に故郷へ帰るのだが、帰国の途中京都で京都盲啞院に派遣されていた後の楽善会訓盲院院長の大内青巒と教授の高津柏樹と出会い京都盲啞院を参観することになる。これが、金沢での盲啞院設立の初願となる。

1880年(31歳) 船13年 3月私立金沢盲啞院創立を相馬氏らと計画。6月、石川県第一師範学校教員梅田九栄と京都盲啞院及び大阪模範盲啞学校に赴き、2カ月間に渡り、教授訓育を研究。帰県後、直ちに金沢長町川岸に私立金沢盲啞院を開院する。

兄の仕送りによる生計、東西本願寺の賛助を受ける。

就学の意義を感じる人が少なく、4・5名の生徒を収容しただけで経営困難になる。

1882年(33歳) 船15年 4月、金沢教育社(師範学校教諭による組織)にその経営を委譲する。

1883年(34歳) 船16年 9月、金沢教育社は解散する。それと共に私立盲啞院は閉院した。社会的にも明治10年代は経済状況が厳しかった。物価の高騰やコレラの発生等のために就学率が低下していた。

- 1886年(37歳)明治19年 3月、『新撰萬国地誌階梯』を発行。(当時の小学校の教科書になる。  
富山中越新聞社(後の富山日報社)の主幹となり初めて自分の力で生活費を得る。しばらくして辞める。福光で『矢水精舎』を創設。文学を教える。
- 1888年(39歳)明治21年 金沢で最初の私立学校『戊子(じゅし)義塾』を創設。中等教育の必要性を強調。
- 1890年(41歳)明治23年 秋、肺炎に罹る。
- 1891年(41歳)明治24年 5月10日、金沢の寓居にて没する。享年43歳

## 【2】盲啞院設立の動機

- ①「自分が聾吃の障害者として不幸を嘗めた苦い経験から、同じ運命に悩む人のため」(石崎直義：福光郷土史家)  
明治末期から大正期にかけて多くの盲啞学校が視覚障害者によって開設されたが、障害教育の草創期に、聴覚障害者がこのような意識をもって設立したには特異なこと。(北野与一：北陸大学)
- ②「不具者にしても教養の失わないで学の道を求めねばならない」とする、適齢就学の啓蒙的教育思想。
- ③「偽善最楽」の思想  
中村正直の楽善会訓盲院設立の『偽善最楽』の思想の影響。
- ④ 中村正直(敬宇)先生との出会い、京都盲啞院の参観。

## 【3】設立の経緯

『盲啞院設立の儀』(交詢雑誌第26号)より  
明治13年(1880)3月初旬金沢で盲啞院創立を首唱、設立準備に入る。  
石川県令千坂高雅氏の称賛を得る。4月、京都盲啞院を訪問。5月設立準備会が開かれ松村が院長に推される。6月長町川岸に私立金沢盲啞院を創設。  
6月初旬から8月初旬に石川県第一師範学校教員梅田九栄氏を同行し京都盲啞院、大阪模範盲啞学校を訪問(県よりの出張)。教授法等を研究する。梅田は明治41年に創立された私立金沢盲啞学校(上森捨次郎創立)の啞生教師になる。7月院長解任。その後も金沢の本願寺別院に盲啞院開設事務を仮設し開院に努力。

## 【4】授業開始と学習内容

金沢で発行の「啓蒙雑誌」(第9号)より  
「当区長町河岸に設立ある盲啞院は昨月二日ごろより開業なりしに同院のあ生徒二名の内一名斎田卓爾(十年ハカリ)ハ僅々の日数なるに単語図等も仮名及ヒ文字にて多分書取する様子又筆算にて三位三段までハ自由に為し得習字も可なり性質穎敏なりと目撃せんしか感嘆してせつ咄なり」

- ①金沢区長町河岸に私立金沢盲啞院が設立市、開業。
- ②授業実施の時期は、発行が明治14年5月21日だから、明治14年(1881)年4月21日である。
- ③開業時には「あ生徒2名」(内1名は10歳程度の児童)
- ④設立認可時の教則は明らかではないが、聾児には「書取」「算術」「習字」の3科が指導され、教育効果を挙げた。